

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

180

2014
October



特集

学生寮を語る～そこは、もうひとつの学びの場

●同志社人訪問

日本コナモン協会 会長

熊谷 真菜さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



特集

学生寮を語る ～そこは、もうひとつの学びの場～

2

SEMINAR ～ゼミ探訪 学びの時間～ 9

文学部美学芸術学科 伊達 立晶 ゼミ

同志社の研究は今 11

創造経済研究センター 河島 伸子 経済学部教授

2013年度 大学決算 13

CAMPUS NEWS 15

アーモスト大学野球部と同志社大学硬式野球部との国際交流について／新島襄海外渡航150周年記念事業 ～「新島の足跡を辿る」碑前祭ツアーを開催／オープンキャンパス 2014開催／東日本大震災被災学生支援募金について／本学留学生が祇園祭に参加／新任教員紹介／2014年度 卒業式・学位授与式／2015年度 入学式／本学教員の執筆図書紹介

留学生紹介 19

キャンディーさん(文化情報学研究科)

INTERVIEW ～同志社人訪問～ 20

日本コナモン協会 会長 熊谷 真菜さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ 23

・宮田 裕也さん(2012年 商学部卒業)

・福井 麻里子さん(2010年 社会学部教育文化学科卒業)

ANNOUNCEMENT 25

MY PURPOSE ～挑戦する人～ 27

「第50回日本女子学生ゴルフ選手権」優勝 ～もう一度頂点に立ち、目指すのはプロの道～

・坂下 莉翔子さん(社会学部メディア学科 3年次生)

表紙の情景 [無料シャトルバス・バス乗り場]



2013年度より今出川～京田辺校地間を往復する学生向け無料シャトルバスを運行している。

本学学生及び同志社女子大学の学生であれば誰でも乗車することができ、今出川校地・クラーク記念館北側にあるバス乗り場から京田辺校地・デイヴィス記念館前バス乗り場を約70分で結ぶ。

キャンパス再編が2013年度に完了し、各学部・研究科の全学年の教育がいずれかの校地で完結する体制となったことにより、それぞれの校地を結ぶ架け橋としてのシャトルバスの位置づけは大きくなった。両校地の講義を受講する学生や課外活動に励む学生たちにとって、まさに頼れる足である。

学生寮を

語る

そこは、もうひとつの学びの場

同志社大学は、全国各地から学生が集う。

彼ら、彼女らが京都で学ぶことを決めた時、

まず考えるのが日々の生活の拠点を

どこに置くか。

一人暮らしを選ぶケースが多い中で、

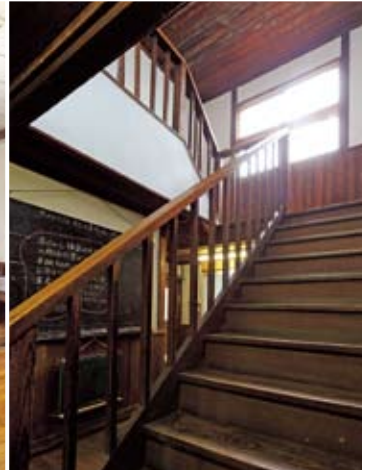
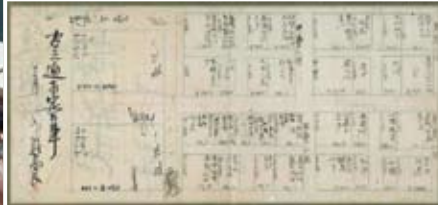
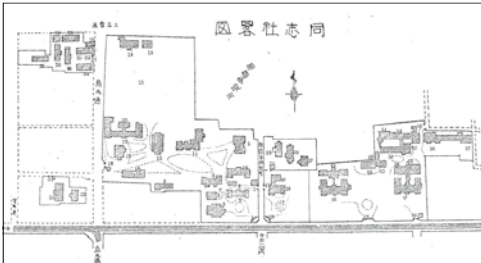
学生寮に入ることを選択する学生も

少なからずいる。

4年間を寮で過ごすこと、

その意味と意義を学生寮の歴史と

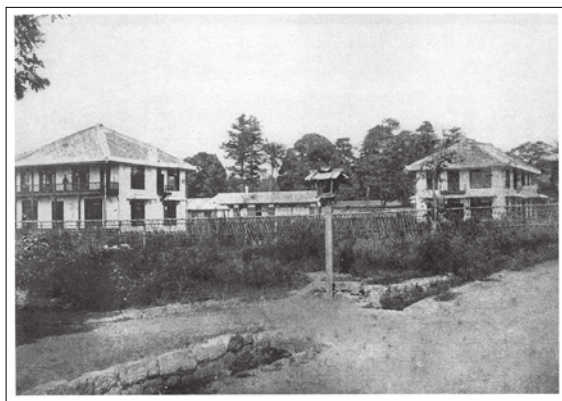
現在の姿から探る。



写真・資料で見る学生寮の変遷

「寄宿舎学校」の時代

同志社が英学校として産声を上げた初期、寮は校舎でもあった。すなわち、寮の中に学校がある、いわば「寄宿舎学校」として、同志社の歴史は始まったのである。当時は校則と寮則が同一のものであり、その第二条にはこう記されている。「通学生徒ハ當市中ニ於テ其父兄或ハ近親アル者ニ限ル可シ」。つまり、通学



する学生は京都市内に親か親戚のいる者に限り、それ以外はすべて寮で生活することを規則とした。

また、1882（明治15）年1月、父兄宛に書かれた「入寮並に食事に関する注意書」の草稿には、学校内外の学生の飲食に



「入寮並に食事に関する注意書」(1882.1)

隠れた重要な歴史遺産
「第二寮」

関する細かな諸注意が記されているが、そこには当時校外の食糧事情が校内で提供しているものに比べて劣っており、寮における食事内容の質が高いことを示した記述もある。さらに、第一寮と第二寮が完成した翌年には、寮長が互選され、学生らの自主性が尊ばれたこともうかがえる。

同志社の重要な歴史遺産の一つに「第二寮」がある。1875（明治8）年11月、京都御苑東の高松保実邸を仮校舎として同志社英学校が開校。そして翌年9月、旧薩摩藩邸跡に新築した校舎2棟が第一寮と第二寮である。1879（明治12）年6月、栄えある英学校の第1回卒業式は、第二寮の1階で行



国際親善を目的とした「同志社ハワイ寮」では、日系アメリカ人留学生と同志社の学生が生活をともにした

われ、熊本バンドの神学生15人を送り出した。翌年4月、朝礼の際に新島校長が自分の掌を杖で打ち、自らを罰した「自責の杖」の現場となったのも、第二寮であった。

第一寮はその後取り壊されたが、第二寮は1893（明治26）年に室町へ移転。1903（明治36）年、さらに同志社女学校へ移され、改修を受けて1階を教室、2階は英文科学生寮とした「新島館」となる。その後も校舎や寮（平安寮、大沢寮）として使われ、1971（昭和46）年には京田辺校地開校前の田辺町（現・京田辺市）に記念建造物として移築を開始。1987（昭和62）年、同志社国際高等学校の体育施設移転に伴い解体され、現在は京田辺校地内の倉庫で資材のみが眠っている。

学寮問題が大学紛争の火種に

英学校が開校した1875（明治8）年、12人だった生徒数は、1911（明治44）年に722人、1925（大正14）年には実に3227人に膨らんでいる。1920（大正9）年4月の大学令による同志社大学開

校を挟んで、学生数が急増。新島襄死去時には少なくとも14寮を数え学生生活と一体化していた寮の形態が、大きく変貌した時代である。

第二次大戦を経て学生数は爆発的に増加する。戦後のベビーブーマー

たちが大学進学年齢に達した1965（昭和40）年前後からは、大学人口の急増と相まって、大学紛争が燎原の火のように燃え広がっていく。同志社大学ではその火種の1つが、神学部生専用の寮だった此春寮の一般寮化に端を発する学寮問題であった。それは男子寮の大成、此春、暁夕、女子寮の一粒、鴨東、松蔭の6寮で組織した全寮協の闘争へ発展し、学生の自治権という論争を巻き起こす先例となった。

大正時代の寮生活



北寮生 1927(昭和2)年

寮の紹介

現在の学生寮を訪ねて

寮生活と学校生活が一体だった時代、数多くあった学生寮は、現在6寮に集約されている。男子寮が大成、此春、壮図、暁夕の4寮、女子寮は松蔭、一粒の2寮。各寮を訪ねて、寮生たちの暮らしを覗いてみた。

ぎょうせき 暁夕寮 【左京区下鴨東高木町】



以前は2部(夜間)の学生のための寮だった。そのせいか男子寮の中で唯一、寮食の提供がなく自炊となっている。定員も18人と男子寮では最も少なく、学年の違いを

超えて寮生の団結力が強いことが特徴だ。寮の行事のハイライトは新入寮生の歓迎会と卒業する寮生の追い出しコンパ。中庭には“暁夕プール”と称する池があり、鯉が泳ぐなど寮生活の憩いの場となっている。寮会は月の最初の月曜日に開催する。



たいせい 大成寮 【左京区岩倉大鷲町】



東の窓から比叡の山並みが一望できる建物は、1962年につくられた鉄筋コンクリート造の4階建て。6寮の中では最も規模が大きく、定員も100人にの

ぼる。敷地は広く運動場や中庭がある。入寮選考は3日間にわたり、入寮希望者は寮食や入浴、スポーツ大会など実際の寮生活を体験する。入寮後1年間は新入寮生同士の相部屋となる。寮内最高の意思決定機関である寮会は、基本的に2週間に1度実施。全寮生出席が義務だ。

しょういん 松蔭寮 【上京区寺町通丸太町上る松蔭町】



第6代同志社社長下村孝太郎の邸宅跡に誕生。現在の建物は鉄筋4階建て築50年だが、過去数度にわたって改修工事が施され、古さは感じさせない。

茶道の稽古にも利用できる日本間があり、食堂からは木立のある庭が望め、いかにも女子寮らしい。入寮後2年間は原則として相部屋。1年次生と2年次生がペアを組み半年に1度部屋替えを行う。寮運営は寮長、副寮長、渉外、会計、文化といったパートで構成する寮務という組織が中心となて行く。寮会は毎週水曜日の夜に開いている。

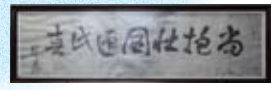
し しゅん 此春寮 【上京区塔ノ段葺ノ下町】



赤レンガの塀と大きな栗の木が目印。元は神学部

の学生寮だった。「人格形成・主体形成(真理探求)」を寮理念に掲げ、寮生活を通して「自分自身で考えて責任を持って行動し、自分を成長させていく」ことを目指す。4月の愛餐会(新入生歓迎会)から始まり、6月ソフトボール大会、7月パーベキュー、10月オープンハウスなど年間行事が満載。入寮後2年間は相部屋(半年ごとに相手を交替)で、寮会は毎週水曜日に開く。

新島襄の句「壮図を抱きて此の春を迎える」から壮図寮、此春寮の名がついた



ひとつぶ 一粒寮 【左京区田中大久保町】



定員11人と、全寮の中で最も少人数の女子寮は、寮というよりも大きな家を11人でシェアしているような雰囲気。全員一人部屋でプライベートが保たれている

一方、毎週火曜日の夜に開く寮会、年1回のお食事会など、折りに触れて寮生全員が集まる。前年の半年間を振り返り、一人ひとりが個人や寮の生活について発表する場を、4月と9月の年2回設けているのも、この寮ならではの。



一粒寮には以前別の施設だった時代に掘られた防空壕が今も残る

そうと 壮図寮 【左京区岩倉忠在地町】



木造2階建ての寮舎が歴史を感じさせる。かつては神学教育施設の一環をなす寮であった。寮の運営は寮長のほか、5人の寮務委員が中心となり、

食堂・庶務・生活・イベントの常設委員会と、オリエンテーション、入寮選考などの委員会活動のもとで行われている。新入寮生はまず春学期のオリエンテーションで寮自治に関する心得を身に付け、6月頃の愛餐会でデビューする。寮会は週に1度。



「炊母さん」に聞きました。

壮図寮 藤本 鈴子 さん

自炊制をとる暁夕寮、一粒寮を除いて、朝夕(松蔭寮は夕のみ)に提供される寮食は、寮生にとって一番の楽しみであり、文字通り生きる糧。日曜日祝日(授業日は有り)と第二土曜日を除く毎日、寮生のために食事を作る食堂担当である「炊母さん」に聞いた。「メニューはだいたい私が自分で決めますが、寮生のみなさんの意見や希望も参考にしています。朝食140円、夕食300円の予算でできるだけいいものを出してあげたいですから、スーパーを回って1円でも安い食材を探すのが大変。男子寮なので、まず重視するのはボリュームと栄養のバランスです。和洋中をうまく組み合わせる飽きないようにすることもポイント。地方出身の学生に郷土料理を教えてもらったり、私自身も楽しんでます。いろんな相談をされることもあり、頼られると息子みたいでうれしいですね」

経済的負担の軽減から 入寮する学生が多い

鈴木●同志社大学の学生寮はどれも本学の歴史とともに歩んできた由緒ある学寮であり、長い歳月の間に多数の人材を育て社会に送り出してきました。また、寮生活は学生時代の貴重な思い出そのものであり、学寮の卒業生は大変強い愛校心があります。集まっていたいたみなさんは、この歴史ある学生寮で今まさに、青春の日々を過ごされています。それぞれの寮の魅力、寮生活の現状などを語っていただき、同志社大学学生寮の今に迫ってみたいと思います。それではまず、学生寮に入寮した経緯をお聞かせください。

奥●私は茨城県出身で、学生寮に住んだ経験がある両親から寮生活を勧められました。大成寮を選んだ理由は、規模が一番大きいこと。私自身県外へ出るのも、京都で生活するのも初めてでしたから、なるべく多くの人と関わってみたいという気持ちがあったのです。

土谷●出身が宮城県で震災の年に入学することになりましたから、親に経済的な

鈴木 良始 【学生支援センター所長】



負担をかけたくないという気持ちがあります。

大本●私が入寮しようと思った理由は、経済的なこともありましたが、ずっとチー

ムスポーツ（バレーボール）をやってきて、

一人暮らしよりも仲間と一緒に過ごしたいという気持ち

があったからです。



寮生が集まる部屋には今も「チャペル」の名が残る（辻田寮）

水城●大分県出身なので親からは寮に入りなさいと言われたのですが、私は最初い

だったんです。でも、資料請求した時に、女子寮なのに門限や外泊についても厳しい規則にしばられるのではなく、友だちを泊めることもできる、そういう自由さに惹かれました。

良永●一番の大きな理由は経済的なことですが、私は親に言われたからではなくて自分で決めた入りました。地元の国公立志望だったのですが、学校の先輩で寮に入っている人がいて、私立大学でしかも実家から離れるということで経済的な負担は増えるけれど、寮に入れば安く抑えられると教えていただいたのです。

集団生活だからこそ 生まれてくる寮の魅力

鈴木●寮生活の魅力、意義はどんなところにあるのでしょうか。

亀山●此春寮の魅力は、1年を通して寮

生全員が集まってやるイベントが多いことです。ソフトボール大会やバーベキューパーティなど、ほぼ毎月何かがあります。中でも一番の伝統行事が、寮のビールも兼ねて行っているオープンハウスです。他の寮生や学内の友人、地域の人たちを呼んで楽しんでもらうのですが、毎年それに向けてビデオを撮影したり、ダンスの練習を

したり、当日の設営からビラ配りまですべて自分たちでやります。まるで部活動のような雰囲気、みんなで成功させよう」と団結します。

良永●一粒寮は人数が少ない分、とてもアットホームなところが魅力です。イベントは少ないのですが、個人がそれぞれ自由に生活しながらも、お互いに気遣いをしながら暮らしています。何気ないことですが、寮生活では大切なことじゃないかと思っています。

奥●大成寮では最初の1年間2人部屋を経験するのが規則で、集団生活はどういうものなのかということを学んで1年間を過ごします。いろんな主義、価値観を持っている人が集まって生活できるとい



お風呂も寮生の大事なコミュニケーションの場（此春寮）



奥 健太郎 さん
【経済学部3年次生】

大成寮

社図寮の夕食▶



▼松蔭寮の夕食



かつて大学生活と学生寮での暮らしはイコールだった。しかし今、学生の中に寮の存在が意識されることは少ない。そんな時代にあって、現実に寮生活を送る学生たちは、どのような思いを抱いているのだろうか。6つの学生寮から現役の学生に集まってもらい、学生寮の今を語り合った。

うことが、寮生活の一番の意義だと思っています。私も大成寮に入って、いかに自分が狭い視野で物事を考えていたのかということがわかりました。

大本● 社図寮の特徴は、寮生の仲がよいのと同時に信頼関係がしっかりしているところ。個人部屋なのですが、各部屋に外鍵をつけていないのです。信頼関係がなければまず成り立たないことです。それを根本に、より良い生活を送っていくために、しっかり自治活動を行っている点が社図寮の大きな魅力です。また、個人的にうれしいのは寮食がすごくおいしいこと



土谷 凌太 さん
【法学部4年次生】

暁夕寮



大本 佳弥 さん
【政策学部3年次生】

社図寮

とです(笑)。炊母さんがフレンドリーで、寮生の意見も聞いて限られた予算内でやりくりしてくれます。寮生のニーズに合わせて、しかも栄養バランスも考えた食事を作ってくれて、夕食が300円、朝食140円なんですから！

土谷● 料理の上手な先輩もいて、包丁の持ち方から教えてくれるので、とくに自炊だからといって苦勞することはないです。



この部屋で4年間勉学に励む
(暁夕寮)

水城● 松蔭寮は夕食だけなんです、250円です。こいボリューム。夜と朝で分けて食べたりする人もいます。

鈴木● 先ほど寮の自治という言葉が出ましたが、学生寮は学生自身が自主的に運営することが基本になっています。寮生活をスムーズに運営していくうえでの苦勞というのはあるのです。

「寮会」は全員の意見が一致するまで続く



水城 美冠 さん
【経済学部2年次生】

松蔭寮



良永 礼奈 さん
【商学部4年次生】

一粒寮

大本● 社図寮も寮会で出た意見は守らなければいけないというスタンスです。さらに、寮会での決定は全会一致が基本。多数決はとらないので、反対意見がある限りは決まりません。ですから、夜の10時くらいに始まって朝の5、6時まで話し合いが続くこともあります。

水城● 松蔭寮も同じです。寮務という6人の幹部的な役割の人がいて、私もその1人なのですが、全員2年次生。先輩たちがたくさんいる中でみんなの意見をまとめていく形を取るの、寮会は自然に長引いてしまいます。

奥● 大成寮は人数が多いので、議題に



亀山 洋志 さん
【文学部3年次生】

此春寮



アーモスト館1階ホールにて

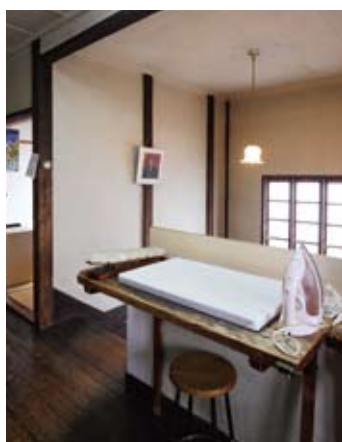
よって多数決ということもあります。ただ、少数意見を見過ごすことは絶対にしません。最低限少数意見のフォローをいたうえでの多数決です。

鈴木● 社会に出ると、考え方のまったく違う人がいる中で一致点を見出していかななくてはいけないわけですから、今からそういう機会を持てるのはいいことだと思いますね。

最後に寮生活を振り返って、自分の成長にどんなことがプラスになっているかを教えてください。

亀山● 此春寮でも全会一致を採っていて、意見の衝突もありますが、自治寮として学生主体で動く中で、自分に責任を持って行動するようになったことは大きなプラスだと思います。

良永● 最初は経済的な負担を軽減するために入ったのですが、一人暮らしではなく共同生活をしたことが良かったです。そばにいつも誰かがいてくれる、何でも話し合える。もちろん、寮会があるので火曜日



共用のアイロンに女子寮らしさが垣間見える(一粒寮)

は絶対帰ってこないといけないなど制約も多いですが、初めて家族以外の人と住んだ経験は、貴重だったと思います。

自治活動の中で得た経験と人間関係が将来に生きる

水城● 毎日の共同生活自体が、自分自身の成長の糧になっていると思っています。2年次生の春学期から寮務をやらせてもらっているのですが、私の場合は他の寮や学校、学外の業者など、いろんな人たちと関わるが多く、それも自分の成長につながっています。

大本● 寮の自治活動をやっていく中で、企画力、責任感、コミュニケーション能力、発言力というものをしっかり身に付けることができました。寮生活で築いた人間関係は、社会でも大切になってくる大きな財産です。

奥● 寮長としてみんなをまとめるという経験をさせてもらい、視野が広がったことが大きいと思います。一人暮らしでは経験できないことが学生寮には詰まっています。大成寮出身の卒業生の方にお話を伺うと、みなさん帰ってこられる場所があることがうれしい、大成寮は第2の故郷だと言われます。ですから、学生寮は大学が存在し続ける限りなくさないでほしい。私たちも努力する必要があるだろうし、

大学側と力を合わせてよりよい未来に向けて寮作りを進めていくべきだと思います。

土谷● いろんな人の意見をまとめて寮運営に反映するというのは、自分にとって糧になっていると思います。

晩夕寮もOB会があつてたくさんの先輩の方と話す機会がありますが、同じ寮で生活した仲間なら、自分を犠牲にしても世話をするというような気概をみんな持っています。これからも寮は、そういう濃密な人間関係を形成していける場として長く続いてほしいと思います。

鈴木● かつては今より寮の数も多く、収容定員もずっと多かった時代があります。それぞれ歴史を経て今の学生寮があります。歴史の流れの中で、今を担っているのがみなさんです。今後、歴史と理念を継承しながら、同志社大学の学生寮をどうしていくかを考える時に、また意見を聞きながらよりよい形で発展させていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。



寮オリジナルのシャツも学生自治を象徴する

松蔭寮 50th anniversary



松蔭寮 寮職員
まき た なお こ
蔭田 直子 さん

寮生たちの4年間を共に走る 伴走者でありたい。

各学寮には寮生たちの生活をケアする「寮職員」がいる。故郷から遠く離れて暮らす学生たちにとって、その存在は貴重だ。松蔭寮の寮職員として35年、寮生たちと過ごした蔭田さんが、自身の思いを語る。



昔も今も寮生たちは 同志社の宝物

昔に比べて今の学生は変わったとよくいわれます。しかし私には、本質的にあまり変わったとは思えません。寮生たちはみんなしっかり者で、遠方から入学してきて学資支弁が厳しい、でも勉強したいという人たちです。いろんな事情を抱えていて、でも同志社に対して強い思いを持っている人たちが入ってくるのです。私は寮には同志社の宝物が集まってきたと思っています。

寮母さんと暮られて

寮母さんは何をする人なのかとよく聞かれます。いつてみれば私は、寮生たちが4年間必死で駆けていく横を、時には励まし、時には一緒に悩んだ



り喜んだりしながら伴走しているのだと思っています。普段何もなければ、いてもいなくてもいい存在でありたい。自治寮ですから、寮生が自分たちで考え、決定して寮を運営していくことが大事。私がいえることをすればするほど、寮生

たちの力が弱まってしまいます。生活をする場なのでいざこざが起きたりしますが、自分たちで話し合って解決していくことが基本ですから、私が代わってやってしまうと何もいいことはありません。横でそっと見ていて、困ったときだけ役に立てばいいと思っています。

寮生自身が日々の暮らしを作っていく

寮は学生がサービスを受けるところではありません。寮生が自分たちで自分たちの暮らしを作っていく、受身でいては暮らせない場所です。



生活の中の小さな出来事、例えば2人部屋だと、全然知らない人と一緒に部屋になるので、夜は電気を消さないと寝られないとか、そういう細かいことから2人で話し合わなくてはいけません。その結果、寮の友人はとても距離が近い一生モノの友達となります。

入寮に際しての選考も、基本的に寮生が行うことになっています。入寮希望者は全員、一度寮に来てもらって寮生自身が面接をしている寮もあります。しか

松蔭寮 50年 -第2の故郷-

【日程】 2014年9月30日(火)～11月2日(日)
ただし、月曜日、10月5日(日)、12日(日)
は閉室

【場所】 今出川キャンパス ハリス理化学館
同志社ギャラリー1階
常設展示室「同志社の今」

【開館時間】 10:00～17:00

【主催】 松蔭寮50周年記念展実行委員会

【協力】 同志社社史資料センター

し、松蔭寮では数年前から、面接をやめて経済審査だけになっています。入寮希望者が多く、遠方から多額の費用と時間を使ってきてもらってお断りするのには申し訳ない。経済事情を最優先に選考しよう。これも寮生たちが話し合って決めました。寮生が自主的に行ったことで感心したのは、1995年の阪神・淡路大震災の時でした。寮をオープンにして、困っている受験生に提供したのです。「寮においでください」と避難所に張り紙を出し、被災者も受け入れ、30人以上の方が短期間滞在されました。大学には何も言わず自分たちの判断で行ったものですから、後で私が大学に謝りましたけど(笑)。



感性を言葉にする能力、
発想する力を養う。専門性にこだわらず
幅広い領域で研究していく

美学芸術学科、通称「美芸」。学科の名前を聞いて、芸術系の大学で学ぶある種テクニカルな授業を想像すると、それは間違いだ。絵画の歴史は学んでも、絵筆を持つてキャンバスに向かう訳ではない。音楽作品の時代性や地域性を学ぶことはあっても、実際に曲づくりをすることはない。美しい風景、陽気な音楽、憂鬱な小説、神秘的な絵画、面白い芝居、不気味な映画……私たちの生活を彩っているさまざまな美的・感性的なものを捉え、哲学や歴史学、芸術学の文脈で考えるのが、美芸なのである。

少人数教育を行い、1・2年次の「美学芸術学基礎演習」では、20人程度のクラスでゼミのベースとなる発表や議論の仕方を学ぶ。卒業論文作成に向けたゼミがスタートするのは、3年次から。8人の教員別に10人前後の編成で、1・2年次に養った基礎的能力を発展させながら、作品の持つ意味や芸術家の考え方、あるいは美

や芸術そのものへの理解を、歴史的・理論的背景を踏まえつつ、能動的に深めていく。

伊達立晶教授が専門とする研究分野は「文学」。文学の観点

から芸術を理解しようとするものだが、ゼミ生の研究対象はその枠にとどまらず、美術、映画、演劇など多岐にわたる。

「文学部にこだわる必要はまったくありません。自分が研究したいと思うことを、ブレイキを踏まずに進めていってもいいのです。その上で、論文の書き方や論じ方など一定の学問的ルールや、どうすれば効果的に表現できるかといった手法については、授業で指導していきます。他のゼミには担当教員の専門性が強いところもありますが、ここでは本当の意味での自由さを感じてもらえるはずですよ」

伊達立晶

【文学部教授】

私自身、専門を転々と変えてきているので、と伊達先生は笑う。

他の人たちの刺激を受けながら卒論というゴールに向かう

「しかし」と、先生は言う。

「何をやってもいいのですが、ただ調べてまとめましたというのでは困ります。そこに自分の意見を必ず入れてほしい。できるだけ他の人が考えられるようなことではない、独自の考え方を提示してほしいのです」

ゼミでは1人が年4回、自分の研究し



ているものを発表する。最初は「好きな作品の紹介」になりがちだが、回を重ねるごとに「問いを立て、提示した材料で分析し、答えを出す」というプロセスと、それぞれの考察に重きを置いた発表内容に変化していかなければいけない。また、自身の発表だけでなく、他の人が発表した内容に対して、「自分はこう思う」と意見を言うことも求められる。

「今の学生は調べる能力は高いのですが、発想する力の弱い人が多い。『外的な質問』『や』『思いつき』からでも発想が広がることはあるのです」

取材したのは13人が所属する3年次生のゼミ。発表はまだ1〜2回を経たところで、テーマを変えながら自分のやりたいことを探している段階だ。

「卒論というゴールに向かって、他の人たちの刺激を受けながら、今はとにかくいろんな方向へ広げていってほしい。その中からだんだん本当に自分のやりたいことは何かが見えてきます」

社会でも求められる感性を言葉で表現する能力

美芸を出た学生の進路として特徴的なのは、美術館や博物館などの学芸員。だが、施設の数に限られ、採用枠もそうはない。門戸は狭く、多くの学生は一般企業を目指す。だが、文学部でしかも芸術分野。法学



部や経済学部、商学部のように、社会に直接結した領域を学んだ学生に比べると、いささかが悪いのではと思うのだが、先生は「決してそんなことはありません」と言う。

「普段からわからないことは質問をして理解し、意見を言う訓練を積極的に実践している学生は、就職活動の集団討論などでは強いのです。実際にあった話ですが、経済学部や商学部の学生が大学で勉強した専門用語を駆使して話したのに対し、美

芸の学生はわからないことは自分が理解できるように説明を求め、理解したうえできちんと自分の言葉で意見を言った。企業の採用担当者に評価されたのは、いうまでもなく美芸の学生だったそうです」

何かを美しいと感じた時、なぜそう思ったのかを言葉で説明できるようになるのが、美芸での学びだ。加えてゼミの2年間で、わからないことに対しては「わからない」と言い、質問を繰り返して自分なりの理解をしたうえで別の発想を提示する姿勢が身に付く。

豊かな感性を持ち、それを言葉で的確に表現する能力は、実社会でも必要とされる。先生が学生に求めるのも、感性と知性を磨くこと。「それらを自分の言葉にして説明できる力を身に付けば、いろんなところで活かれます。美芸の強みはまさにそこにあると思っています」

こうした先生の思いに対して、学生たちは学科やゼミでの学びをどのように捉えているのだろうか。

「実学的なことからは遠いかもかもしれませんが、生涯にわたって役立つことが学べます。広く深い視野を持ち、一生使える力を身に付けることができる学科だと思っています」と言うのは、学芸員を目指す下岡史奈さん。下岡さんと同様、最初は学芸員を目標にしていたが、今は一般企業に志望を変えた金子未来さんも、「芸術に関係したと



ころで、学んだことを活かしていければ」と、ゼミでの学びが役立つ方向を模索する。そして、現代短歌や純文学について研究している橋爪志保さんは、「精神的な部分で人を救えるのは、文学であり芸術だと思うのです。そういうことに真剣に向き合っていくのが、美芸での4年間なのではないでしょうか」と語った。

ともあれ来年の秋頃は、それぞれひとまず卒論という学生としてのゴールに向き合っていないではならない。

20世紀における日本経済は、大量・安価・効率を追求することで成長してきた。しかし21世紀、パラダイムシフトにより経済競争力強化の方向性は大きく変化している。国民生活の質を向上し、環境への負荷を伴わない持続可能性を持った経済の発展を考えた時、鍵となるのは市場価値のあるイノベーションをもたらす創造力である。そうした考え方をコンセプトに、R&D(研究開発)戦略、人材育成、創造都市、国家ブランディングと創造産業育成政策、福祉政策といったテーマで研究を進め、国内外に情報を発信していく拠点として2013年4月、「創造経済研究センター」が発足した。「国際」と「学際」をキーワードに基礎研究を進め、政策提言を行っていくセンターの活動内容や特徴について、センター長の河島伸子経済学部教授に伺った。

新たな発展の源泉となる クリエイティブ・エコノミーの 戦略的研究・情報発信拠点

4つの研究領域と9つの 研究会

創造経済研究センター設立の目的は、21世紀において経済の競争力の源泉は創造性にあるというところから出発し、社会的・経済的価値のある創造的活動を促進する社会経済システムを構築することにあります。そのために現在、以下の4つの領域を設定し、それぞれに研究会を組織して研究活動を進めています。

- ① 高市場価値イノベーションとR&D基盤に関する調査・研究
- ② 「ビッグデータによるイノベーション・シーズの探索システム構築研究会」
- ③ 創造的人材を吸引する創造都市形成に関する調査・研究
- ④ 「創造都市形成研究会」
- ⑤ 「St. CORE(セイントコア)研究会」
- ⑥ 国家ブランディングを高めるコンテンツ産業の育成に関する調査・研究
- ⑦ グローバル化する文化創造—創造産

業政策の今後」

・「伝統文化の現代的創造研究会」

・「創造産業の持続的発展に関する研究会」

④ 創造経済における生活の質向上に関する調査・研究

・「公共経済学フロンティア研究会」

・「幸福感とスポーツ政策研究会」

・「幸福感分析研究会」

「国際」をキーワードに シンポジウムを展開

これらの研究会の中で、例えば創造都市形成研究会では、アーティスティックな活動や文化イベントなどにより創造的人材を吸引していくという創造都市形成の1つのスキームの中で、都市内で価値連鎖がどのようにつながっていくのか、あるいは障がい者や高齢者を地域に取り込んでいく社会的包摂というもの、具体的に都市の中でどのように進めていくべきかということが研究のテーマとなっています。

また、新しい芸術概念を世界に発信するとともに、才能ある人材を世界から吸引し、そのコラボレーションを



セイントコア研究会のリーフレット

プロデュースすることにより、新たな創造物をつくっていくこうとしているのが、「セイントコア研究会」です。この研究会の具体的活動として今年6月10日、ユネスコの元アジア・ディレクターであるステファン・ヒル教授をメインゲストに迎え、アーティストのツトム・ヤマシタ氏がプロデューサー的役割を担い、同志社礼拝堂において「多文化社会における普遍的価値の共有」をテーマにした国際シンポジウムを行いました。そこでは共通価値の共有化と人間性・精神性に基いた創造経済の構築について活発な議論が交わされました。

当センターの役割を表すキーワードに「国際」があり、様々な国から研究者を招いてシンポジウムを開催していることも

センターの大きな特徴です。昨年2月、フランス、ベルギー、イギリス、ドイツ、スイスの5カ国から研究者を招き、幸福の経済学に関するワークショップを開きましたが、10月にはそのブラッシュアップ版として、パリで国際会議を開催します。その結果は英文で出版する予定になっています。

京都にある意味と 同志社大学にある必然性

国家ブランディングという点については、クールジャパンに見られるように、国のブランドを印象づけることによってマーケットを拡大することが、1つの具体的政策目的としてあります。日本に対する文化理解度、リスペクトを高めるためには、浄瑠璃や能楽といった伝統文化や映像、音楽などの創造産業を積極的に世界へ発信していくことが必要になります。

その意味でも、当センターが京都にあるということは重要なことです。長い歴史、文化の蓄積があり、クリエイティブ・エコノミーの土台的要素が凝縮されている京都から世界に発信することが、何より求められているといえるでしょう。

さらに、同志社大学に開設された背景を考えると、そこには明確な必然性がある



A 2014年7月9-10日に開催された国際ワークショップ「創造産業とアジアにおける文化の交流」風景。2日間にわたり、フランス、オーストラリア、イギリス、シンガポール、韓国、台湾、香港からの参加者らと議論を交わした。

B 「多文化社会における普遍的価値の共有」シンポジウム風景。会場からも活発な意見が出た。

ります。昨年度より、経済学研究科にはクリエイティブ・エコノミーコースが設置されています。そうした科目のある大学は、国内にはほとんどありません。また、センターのメンバーになっている教授、研究員などの人材の厚みも大きく、2年前には日本人と外国人合わせて400人ほどが参加した国際文化経済学会の大会を開催しました。

当センターに期待されているのは創造経済に関する世界の拠点化です。ハブのような形で国内外の様々な組織・団体と連携していく。そのためには内部での研究の蓄積と発信能力を高めていくことが求められます。今後は「学際」の意味合いも含め、シンポジウム、出版、ワークショップ、様々な機会を通じて国内外の研究者たち、研究機関・学術団体、一般企業とのコラボレーションをより進めたいと考えています。

2013年度

大学決算について

財務部 経理課

2013年度大学決算は、2014年5月8日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月24日開催の法人理事会で承認されました。

2013年度の教学組織に関する改革は、今出川校地と京田辺校地における教学体制の再構築に取り組みました。従来、京田辺校地で学んでいた文学部・法学部・経済学部・商学部の1、2年次生を今出川校地へ統合移転する事で、全学部の学生は今出川・京田辺それぞれの校地で修学を完結できるようになりました。今出川キャンパスに新設した良心館には、日本の大学では最大級の延床面積約2,550㎡を誇るラーニング・コモンズを開設し、学生の「新しい学びの広場」として活用される事が期待されています。また、烏丸キャンパスには、地域の文化・歴史・社会に関する学際的な知識を基礎として、グローバルな視点から現代世界が抱える諸問題を研究する「グローバル地域文化学部」を開設しました。

研究力をより一層強化するために、産官学連携や国際共同研究、研究拠点形成などに積極的に取り組んだ結果、「私立大学戦略的研究基盤形成事業」に「クリエイティブ・エコノミー発展のための基盤形成のための調査・研究」、「超音波を基軸とした新たな医療技術開発の拠点形成一ヒトにやさしい医療を目指して」、「ナノ繊維・粒子の最適制御技術を基盤とする新規複合材料機能の開発」、日本学術振興会の「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に「朝鮮半島と日本を越境する植民地主義および冷戦の文化」がそれぞれ採択されました。

自然災害に対する緊急措置としては、「東日本大震災被災受験生に対する入学検定料および被災学生に対する学費減免措置」を継続するとともに、2013年度の大規模災害についても、学資支弁が困難となった在学学生を対象に減免措置を行いました。

社会との連携を重視した地域に貢献する取り組みとして、京田辺キャンパスにおいて「同志社京田辺祭(クローバー祭)」をはじめとした京都府京田辺市との地域連携行事を展開しました。その他に、東京オフィスを移転・拡充し、「同志社大学 京都『家元講座』」を東京で展開する等、同志社大学の全国的なブランド力向上に努めました。

将来に向けての改革では、京田辺校地において脳科学研究科および博士課程リーディングプログラムの拠点スペースとなり、全学共用の実験・研究スペースで構成する複合的研究施設、キリスト教主義教育を象徴する宗教教育施設の建設に着手しました。今出川校地においては、グローバルMBAコースを発展・充実させた「ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程」(2014年4月に開設)の開設準備に取り組みました。

上記のとおり、2013年度は、従来から継続している国際化の推進と教学体制の再構築を中心とし、必要な財政的支援を行いました。支出面においては、教育研究に係る各事業での経常的経費の執行残などにより、予算と比較して減少となりました。一方、収入面では、入学志願者数を安定的に確保したことによる入学検定料の増加や、奨学事業宛寄付金の受入れ、受託研究事業の採択に伴う外部資金の獲得に継続的に取り組んだことにより、予算よりも増収となっています。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は319億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は76%と大きな比重を占めています。

手数料は19億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は6億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金を受入れました。

補助金は48億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助28億円、特別補助6億円を受入れています。また、新たに教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対して重点的に支援される「私立大学等改革総合支援事業」に選定されました。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金として研究装置、研究設備などの採択を受け、さらに戦略的な国際化拠点の形成を目的とした国際化拠点整備事業費補助金(グローバル30)、グローバル社会で活躍できる人材を育成するグローバル人材育成推進事業(Go Global Japan)などを受入れました。

資産運用収入は6億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は9億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は9億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰入金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

当期固定資産除却額は30億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は1億円で、研究装置取得に係る研究装置設備等整備資金の取崩額です。

特定支出準備金取崩額は4億円で、使途が特定された準備金の取崩額などです。

収入の部合計は456億円となり、手数料、寄付金、事業収入、雑収入などの増収および当期末未払金の増加などにより予算に対して22億円の増加となりました。

支出の部

人件費は199億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は47%となりました。

教育研究経費は163億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は17億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金は7億円で、法人内諸学校への資金調達による繰入額が主なものです。

施設関係支出は20億円で、既存建物の耐震改修工事や警上館の増築工事などによる支出です。

設備関係支出は23億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

当期固定資産受贈額は2億円で、現物寄付金に相当する固定資産の取得額です。

借入金等返済支出は2億円で、償還計画に基づく

返済額です。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

特定支出準備金繰入額は5億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は459億円で、予算に対して4億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度消費収支差額は3億円**の支出超過となり、寄付金や補助金収入の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して26億円減少しました。なお、累積消費収支差額としては**347億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して2億円減少し、当年度末では**3億円**となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は348億円でしたが、当年度末は2億円増加して**350億円**となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

■収支計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	31,818,150	31,921,615	△ 103,465
手数料	1,732,200	1,878,334	△ 146,134
寄付金	244,220	580,010	△ 335,790
補助金	4,140,430	4,806,404	△ 665,974
資産運用収入	548,380	616,200	△ 67,820
資産売却差額	0	7,539	△ 7,539
事業収入	623,900	851,238	△ 227,338
雑収入	845,680	907,091	△ 61,411
繰出金	332,820	331,473	1,347
分担金	119,320	119,320	0
(帰属収入合計)	(40,405,100)	(42,019,224)	(△ 1,614,124)
当期固定資産除却額	2,764,720	2,924,244	△ 159,524
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	60,300	143,194	△ 82,894
第2号基本金取崩額	100,000	100,000	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(2,925,020)	(3,167,438)	(△ 242,418)
特定支出準備金取崩額	83,340	428,982	△ 345,642
[収入の部合計]	[43,413,460]	[45,615,644]	[△ 2,202,184]

用語解説

● 収 支 計 算 書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているので、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

● 基 本 金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

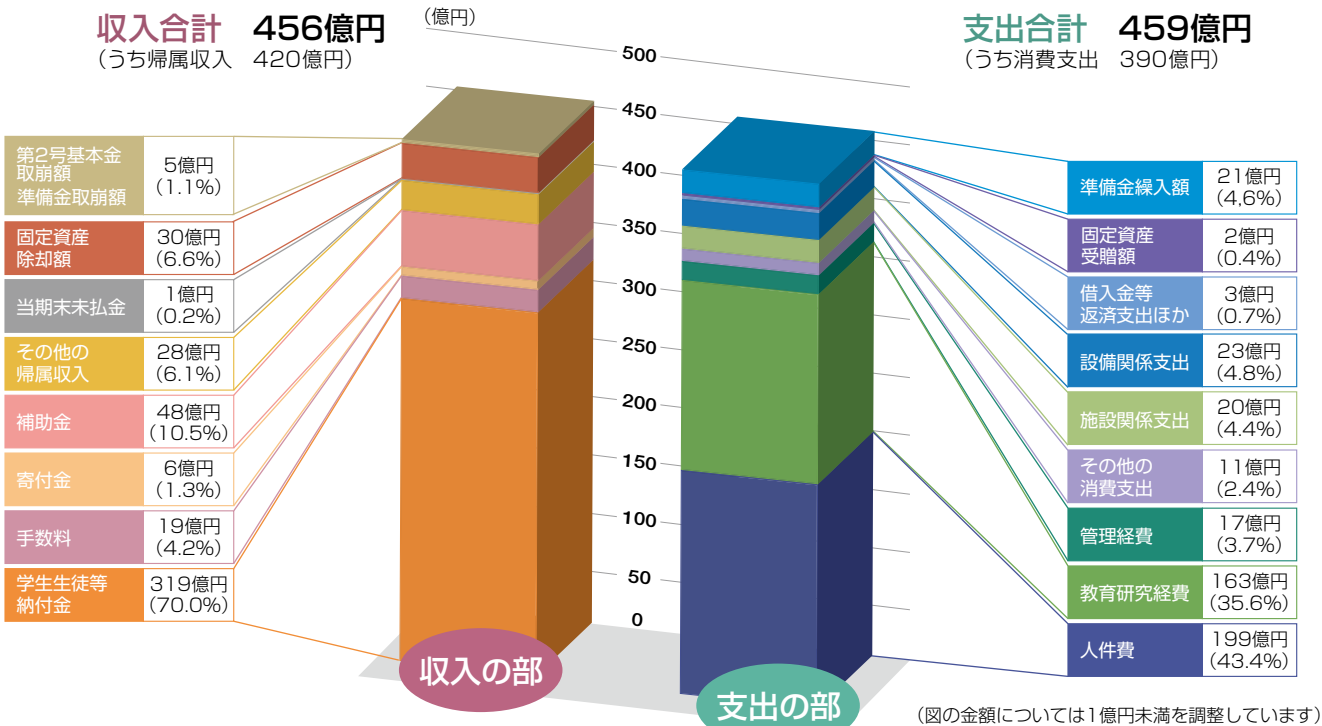
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	20,030,050	19,889,455	140,595
教育研究経費	16,250,840	16,333,091	△ 82,251
消耗品費他	12,295,990	12,364,690	△ 68,700
減価償却額	3,954,850	3,968,401	△ 13,551
管理経費	1,634,210	1,712,754	△ 78,544
消耗品費他	1,462,410	1,549,903	△ 87,493
減価償却額	171,800	162,851	8,949
借入金等利息	7,390	7,387	3
資産処分差額	147,270	238,957	△ 91,687
徴収不能引当金繰入額	152,020	144,085	7,935
徴収不能額	0	8,842	△ 8,842
繰入金	675,020	702,852	△ 27,832
予備費	120,000	0	120,000
(消費支出合計)	(39,016,800)	(39,037,423)	(△ 20,623)
施設関係支出	2,718,470	2,001,733	716,737
設備関係支出	2,428,370	2,215,149	213,221
当期固定資産受贈額	0	211,622	△ 211,622
借入金等返済支出	206,080	206,080	0
前期末未払金	91,400	91,401	△ 1
第2号基本金組入額	1,200,000	1,200,000	0
第3号基本金組入額	235,000	235,000	0
第4号基本金組入額	160,900	160,900	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(7,040,220)	(6,321,885)	(718,335)
特定支出準備金繰入額	218,840	519,554	△ 300,714
[支出の部合計]	[46,275,860]	[45,878,862]	[396,998]

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度消費収支差額)	(△ 2,862,400)	(△ 263,218)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	△ 127,293	—
消費支出準備金取崩額	2,179,170	0	—
[繰入取崩後当年度消費収支差額]	[△ 683,230]	[△ 390,511]	[—]
[前年度繰越消費収支差額]	[△ 34,264,140]	[△ 34,264,144]	[—]
[翌年度繰越消費収支差額]	[△ 34,947,370]	[△ 34,654,655]	[—]

借入金			
科目	予算	決算	差異
[前年度末借入金残高]	[△ 516,530]	[△ 516,530]	[—]
当年度借入額	—	—	—
当年度返済額	206,080	206,080	—
[当年度末借入金残高]	[△ 310,450]	[△ 310,450]	[—]

■収支構成図



アーモスト大学野球部と 同志社大学硬式野球部との 国際交流について

8月5日～11日にかけて、新島襄の母校であるアーモスト大学の野球部と同志社大学硬式野球部との国際交流が行われました。100年以上の交流を持つ両校ですが、野球部の来訪は初めてのことです。交流初日には歓迎パーティーが開かれ、「単語やジェスチャーで仲良くなった」との声もありました。1週間の交流の中で両校の選手たちはアメリカ式の練習や日米混合チームの紅白戦を行い、野球という共通点から友情を深めました。

交流最終日には京田辺キャンパス硬式野球場にて国際親善試合が開催されました。試合前にはアーモスト大学野球部OBからの記念カップ贈呈や、石井明三京田辺市長の始球式などのセレモニーが朗らかな雰囲気の中で行われました。

セレモニーでは笑顔を見せていた両校の選手たちも、試合が始まるとその表情は真剣そのものに。試合序盤はアーモスト大学がホームランなどで

6点を奪い主導権を握りましたが、中盤以降は同志社大学のペースになっていきました。5回には打者一巡の攻撃を見せ、一挙5点を挙げました。8回にも6点を追加した同志社がリリーフ陣の好投でアーモスト大学の反撃を許さず、16-6で同志社が勝利しました。

「アーモスト大学との交流でチームの雰囲気が明るくなったし、良い意味で刺激になった」と篠川主将。今回の国際交流は深い関係を持つ両大学だけではなく、それぞれの野球部にとっても大きな価値を持つものとなりました。

(スポーツ支援課)

新島襄海外渡航 150周年記念事業

「新島の足跡を辿る」
碑前祭ツアーを開催

創立者新島襄が函館の地から渡航して今年が150年目の記念の年にあたり、この記念の年に学校関係者のもとより、記念碑を守り続けている現地の校友・同窓、さらには全国の校友・同窓、函館市関係者、風間浦村関係者が一堂に会し、150年前の新島の想いを偲ぶ記念行事を実施しました。

6月14日、函館市大町に建立されている「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭が学校関係者、校友、同窓、函館市民の方々など約

130人の参加のもと行われました。式典は厳かな雰囲気の中始まり、讃美歌を一同で斉唱し、水谷誠理事長の聖書朗読ならびに祈禱に続いて大谷實総長から式辞がありました。式辞の中で、大谷総長は、「150年前の新島の志に思いを馳せ、同志社の今を託されている一人として、新島の熱い想



い、不動の志を再確認し、その志を継承進化させるために、渾身の努力を傾ける決意を新たにしたいところです。どうか、参加の皆様におかれても、同志社の二層の発展進化のために、更なるご支援をよろしく願います」と話し、続いてこの碑を60年近く守ってこられた函館市民の皆様に対する感謝の意を述べました。その後、片岡格函館市副市長から挨拶があり、出席者一同で

カレッジソングを斉唱し、水谷理事長の祝祷の後、碑前に花束を捧げ、式典は滞りなく終了いたしました。

引き続き、会場を移して、新島襄海外渡航150周年記念講演会が開催されました。小枝弘和同志社史資料センター・社史資料調査員から「新島襄にとっての「函館」と題して講演があり、また、村田晃嗣学長から「新島の志と同志社の今後」と題してそれぞれ講演がありました。120人を越える参加者は熱心に聞き入っていました。

講演会終了後、函館山山頂まで移動し、交流レセプションを開催しました。水谷理事長から150周年を記念して製作された「ベルリン号の復元模型」が片岡函館市副市長に贈呈されました。参加者は函館市内の景色を眺めながら新島先生の熱い志を心に刻み、思い思いに交流を深めていました。

翌6月15日、青森県下北郡風間浦村、下風呂の海峡いさりび公園で、100人を超える参加者のもと、「新島襄寄港の地碑」碑前祭が執り行われました。風間浦村は、新島襄が函館に向かう途上、北風と激しい潮流を避けるため、3日間寄航したゆかりの村で、1992年に海峡いさりび公園内に寄航の地記念碑が建てられました。碑前祭終了後、風間浦中学校体育館で「学校法人同志社・風間浦村交流午餐会」が開催され、村田学長から150周年を記念して製作

された「ベルリン号の復元模型」が飯田浩一風間浦村長に贈呈されました。

その後、大間港から函館港まで向かうフェリーの中で、同志社校友会主催の船上レセプションが行われ、「新島の足跡を辿る」碑前祭ツアーは終了しました。

(法人事務室)

オープンキャンパス 2014開催

7月27日京田辺キャンパス、8月3日今出川キャンパスにおいて、オープンキャンパスが開催されました。両日とも降雨に見舞われた開催となりましたが、両キャンパスで計16,726人の来場があり、昨年より400人多い参加者となりました。両校地とも、教員による学部・学科紹介、模擬講義、一般入試の英語問題を解説する「同志社の英語を学ぼう!」大学紹介・入試説明会、AO入試説明会、保護者説明会などを実施し



ました。個別相談ブースにもたくさんの方の受験生や保護者が訪れ、教職員、在学生が様々な質問に答えていました。今年度初めて、国際教育インスティテュートの説明会が実施され、海外で高校までの教育を受けた生徒及び保護者も多数参加されました。その他、研究室、実験施設の紹介、独自企画イベントや図書館見学、キャンパスツアーなども行われ、活気溢れる2日間となりました。

(入学課)

東日本大震災被災 学生支援募金について

本学では、2011年3月11日の東日本大震災発生後、被災した本学学生に対して、学費減免等の特別措置を講じるとともに、2012年度からは同志社大学東日本大震災被災学生支援募金事業を実施し、卒業生、在学生父母、教職員等の各方面からのご寄付を募ってきました。

皆様のご支援の結果、2012年6月～2014年8月で13,078,686円の募金が集まっており、2012年度は46人に87,000円、計4,002,000円を、2013年度は43人に124,000円、計5,332,000円を被災学生に対して支給することができましたので、ご報告とともに支援くださった皆様にあらためて御

礼申し上げます。

本学では現在も募金を行っていますので、本募金事業の趣旨をご理解いただき、引き続きご支援をお願いします。

(学生生活課)

本学留学生が祇園祭に参加

7月24日、祇園祭(後祭)の山鉦巡行が行われ、本学の留学生であるTom Schellenberg(トム・シレンベルグ)さんとElyar Najmehchi(エルヤー・ナジメチ)さんが南観音山の曳き手として巡行に参加しました。後祭では、前祭とは逆の時計周りに巡行するため、新町通を北に進み、御池通で華麗な辻回しに歓声が上がっていました。今回参加した二人はドイツのテュービンゲン大学との学生交換協定による留学生で、本学で日本語と日本文化を学んでいます。京都でしか味わうことのできない行事に参加することができ、いい思い出になったのではないのでしょうか。



(広報課)

●新任教員紹介

この度、新たに次の先生方をお迎えしました。

- ①所属(学科/専攻) ②職名
- ③主な担当科目



今井 仁司
(いまい ひとし)

- ①理工 (数理システム学科)
- ②教授
- ③微分方程式



殷 勇
(いん ゆう)

- ①ビジネス研究科 (グローバル経営研究専攻)
- ②教授
- ③オペレーションズ・マネジメント



川口 健次
(かわぐち けんじ)

- ①研究開発推進機構
- ②助教



山形 一行
(やまがた かずゆき)

- ①高等研究教育機構
- ②助教



中田 眞佐美
(なかた まさみ)

- ①高等研究教育機構
- ②准教授

2014年度 卒業式・学位授与式 / 2015年度 入学式

入学式					卒業式・学位授与式(学部)(大学院) 留学生別科修了式								
栄光館	寒梅館 ハーディーホール	京田辺校地 デイヴィス記念館			場所	京田辺校地 デイヴィス記念館		栄光館				場所	
4月3日(金)	4月2日(木)	4月1日(水)			日時	3月22日(日)		3月21日(土・祝)			3月20日(金)		日時
10時	16時30分	14時	12時	10時		13時	10時	15時	12時30分	10時	15時	12時30分	10時
全研究科	留学生別科 国際教育インスティテュート 日本語・日本文化教育センター	神学部、法学部、経済学部、 心理学部、グローバル地域文化学部			学部・研究科	グローバル・コミュニケーション学部 心理学部・心理学研究科 生命医科学部・生命医科学研究科 スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科		理工学部・理工学研究科 文化情報学部・文化情報学研究科 生命医科学部・生命医科学研究科 グローバル・コミュニケーション学部			法学部・文学研究科 法学部・法学研究科 神学部・神学研究科 社会学部・社会学研究科 国際教育インスティテュート		学部・研究科

本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

新・青年心理学ハンドブック

内山伊知郎 他著 福村出版 2,500円

今なぜ発達行動学なのか

胎児期からの行動メカニズム
小西行郎編 小西行郎 他著 診断と治療社 3,800円

Commanderによる

データ解析 第2版

大森崇 阪田真己子 宿久洋著 共立出版 2,800円

軽量化設計

三木光範 他著 養賢堂 3,200円

「米中对峙」時代のASEAN

共同体への深化と対外関与の拡大
浅野亮 他著 明石書店 2,800円

解読する民族運動 構成主義による

ボリビアとエクアドルの比較分析
宮地隆廣著 東京大学出版会 7,000円

和製英語事典

亀田尚己 他著 丸善 3,800円

シクロデキストリンの科学と技術

北岸宏亮 加納航治 他著 シーエムシー出版 72,000円

「労働」の社会分析 時間・空間・ジェンダー

石井香江 他訳 法政大学出版局 3,400円

辣の道 トウガラシ2500キロの旅

加藤千洋著 平凡社 1,500円

講座 アジアの知識人 第3巻

「社会の発見と変容」韓国併合と満州事変
富山一郎 他著 有志舎 3,600円

「マニュアル」の社会史 身体・環境・技術

服部伸編 服部伸 他著 人文書院 3,000円

レクチャー日本の司法

川嶋四郎 他編著 太田裕之 國田賢治
佐伯彰洋 他著 法律文化社 2,500円

英国所得保障政策の潮流

就労を軸とした改革の動向
井上恒男著 ミネルヴァ書房 6,000円

自治体職員のための契約事務ハンドブック

占部裕典 田井義信 監修 第一法規 2,400円

再生医療叢書7 神経系

萩原明郎 他著 朝倉書店 3,500円

グローバル化の中の会社法改正

釜田薫子 他著 法律文化社 9,800円

戦争と向き合って 満州事変と日本敗戦

洪宗郁 他著 有志舎 3,600円

古代から近世へ 日本の歌謡を旅する

植木朝子 他著 和泉書院 3,600円

粉体工学ハンドブック

日高重助 他編 白川善幸 他章担当編
日高重助 白川善幸 下坂厚子 森康維 他著
朝倉書店 25,000円

イスラーム知の遺産

森山央朗 他著 東京大学出版会 7,800円

国際法基本判例50 第2版

新井京 他著 三省堂 2,200円

複合動詞研究の最先端

謎の解明に向けて
沈力 他著 ひつじ書房 8,600円

アフリカ社会を学ぶ人のために

峯陽一 他著 世界思想社 2,300円

日本文化の明と暗

岸文和 他著 風媒社 3,500円

よくわかる社会福祉 第10版

空閑浩人 野村裕美 他著 ミネルヴァ書房 2,500円

日記が語る近代

韓国・日本・ドイツの共同研究
板垣竜太 他編 板垣竜太 太田修 他著
同志社コリア研究センター 寄贈(金額記載なし)

カルチャー・ミックス

文化交換の美学序説
岡林洋 編著 清瀬みさを 村上真樹
越前俊也 他著 晃洋書房 2,900円

MEMORY OF THE PAST AND ITS UTILITY

堀井優 水越知 中井義明 他著
Scienze e Lettere 寄贈(金額記載なし)

ダイバーシティ時代における

法・政治システムの再検証
森靖夫 瀬川晃 川崎友巳 荻野奈緒 山根崇邦
戒能通弘 濱真一郎 他著 成文堂 4,500円

ブリッジブック法哲学 第2版

清真一郎 他著 信山社出版 2,300円

ブリッジブック刑法の考え方 第2版

川崎友巳 他著 信山社出版 2,200円

音韻論

菅原真理子 編 古田優子 菅原真理子 他著 朝倉書店 2,800円

国連開発計画(UNDP)の歴史

峯陽一 小山田英治 監訳 明石書店 8,800円

ワイヤレス通信工学

岩井誠人 他著 オーム社 2,600円

オバマ後のアメリカ政治

— 2012年大統領選挙と分断された政治の行方 —

飯田健 他著 東信堂 2,500円

刑事裁判覚書

— 裁かば裁かれん 念ずれば花ひらく —

佐藤嘉彦 著 成文堂 6,500円

体系監査論

瀧田輝己 著 中央経済社 4,600円

中世人の軌跡を歩く

植木朝子 他著 高志書院 8,000円

交錯する知 — 衣装・信仰・女性 —

竹居明男 他著 思文閣出版 12,000円

ふと浮かぶ記憶と思考の心理学

— 無意図的な心的活動の基礎と臨床 —

及川昌典 他著 北大路書房 3,000円

入門経済学 増訂版

森田雅憲 著 ミネルヴァ書房 2,800円

認知行動療法

武藤崇 他著 放送大学教育振興会 2,500円

情報社会のユニバーサルデザイン

関根千佳 他編著 放送大学教育振興会 2,800円

生活支援の社会福祉

堀橋孝文 他著 放送大学教育振興会 2,800円

おさえておこう!! 現代日本経済の基礎

西村理 他著 朝倉書店 1,800円

1からの経営史

山内雄気 他著 碩学舎 2,400円

労働法概説 第3版

土田道夫 著 弘文堂 3,500円

新判例ハンドブック親族・相続

大中有信 他著 日本評論社 1,400円

戦後日本外交史 第3版補訂版

村田晃嗣 他著 有斐閣 2,000円

日本のコンモンズ思想

佐野静代 他著 岩波書店 3,200円

ロースクール倒産法 第3版

川嶋四郎 他著 有斐閣 4,100円

国際私法

林貴美 他著 有斐閣 2,900円

戦争と平和を問いなおす

— 平和学とフロンティア —

岡野八代 他著 法律文化社 1,800円

地方自治を問いなおす

— 住民自治の実践がひろく新地平 —

今川晃 編著 法律文化社 2,500円

会社法・商行為法手形法講義 第4版

森本滋 著 成文堂 2,800円

グローバル・マネーフローの実証分析

— 金融危機後の新たな課題 —

五百旗頭真吾 他著 ミネルヴァ書房 6,000円

労働法の争点

土田道夫 他編著 坂井岳夫 寺井基博 上田達子 他著 有斐閣 2,600円

スポーツ白書

— スポーツの使命と可能性 —

藤田紀昭 他著 笹川スポーツ財団 3,500円

曾根威彦先生・田口守一先生

古稀祝賀論文集 上巻

奥村正雄 他著 成文堂 2,500円

社会保障法入門 第2版

西村健一郎 著 有斐閣 2,100円

岩波講座日本歴史第2巻 古代2

北康宏 他著 岩波書店 3,200円

青年期発達百科事典

田中あゆみ 他訳 丸善 1,500円

次世代自動車(EV・HV)に向けた自動車材料の樹脂化による車体軽量化 第2版

藤井透 田中達也 他著 技術情報協会 9,000円

Transition management for sustainable development

新川達郎 他著 United Nations University 5,800円

図書館情報技術論

原田隆史 他著 樹村房 2,000円

現代社会と福祉 第2版

堀橋孝文 他著 ミネルヴァ書房 2,800円

社会心理学研究の新展開

池田謙一 他著 北大路書房 3,200円

行政法の基本 第5版

— 重要判例からのアプローチ —

佐伯彰洋 他著 法律文化社 2,600円

明治大正のハンサム・ウーマン

— メディアが伝えた働く女性 —

佐伯順子 著 NHK出版 900円

狩野派と遊楽図

狩野博幸 責任編集 狩野博幸 矢野環 他著 小学館 1,500円

アメリカ憲法判例の物語

尾形健 他著 成文堂 8,000円

現代の起点 第一次世界大戦 第2巻 総力戦

服部伸 他著 岩波書店 3,700円

民主主義再生のためにすべきこと

真山達志 監修 川浦昭彦 編集責任 柿本昭人 川上敬和 オフェル・フェルトマン 小谷真理 田中宏樹 真山達志 武蔵勝宏 川上敬和 著 学芸出版社 900円

ボーダーレス化する世界で今何がおこっているのか

真山達志 監修 阿部茂行 編集責任 阿部茂行 岡本由美子 足立光生 根岸桂子 野間敏克 内田康雄 月村太郎 著 学芸出版社 900円

地域の自立は本当に可能か

真山達志 監修 今川晃 編集責任 今川晃 著 学芸出版社 900円

ライフコースの変化に政策はどう向きあうか

真山達志 監修 中川清 編集責任 川口章 太田肇 中川清 大島佳代子 井上恒男 久保真人 山谷清志 著 学芸出版社 900円

政策学部でどう学ぶか

真山達志 監修 井口貢 多田実 編集責任 学芸出版社 900円

海がはぐくむ日本文化

副島一郎 他著 東京大学出版会 2,800円

資源と生業の地理学

二村太郎 他著 海青社 3,800円

市民のための世界史

向正樹 他著 大阪大学出版会 1,900円

新判例ハンドブック会社法

伊藤靖史 他著 日本評論社 1,400円

心理学概論 第2版

鈴木直人 他監修 青山謙二郎 神山貴弥 武藤崇 畑敏道 編 鈴木直人 内山伊知郎 竹原卓真 菊谷まり子 田中あゆみ 小松さくら 余詔真夫 興津真理子 渡邊ひとみ 杉野弘子 佐藤豪 石川信一 及川昌典 中谷内一也 他著 ナカニヤ出版 3,200円

日本の資本主義と会社法

森田章 著 中央経済社 3,200円

幻想と怪奇の英文学

下橋昌哉 他責任編集

白井雅美 金津和美 下橋昌哉 他編

白井雅美 金谷益道 大沼由布 下橋昌哉 金津和美 他著 春風社 2,700円

都市構造と都市政策

石田信博 伊多波良雄 他著 古今書院 2,800円

GMの経験 新版

石田光男 他編著 中央経済社 3,800円

曾根威彦先生・田口守一先生

古稀祝賀論文集 下巻

川崎友巳 洲見光男 他著 成文堂 2,500円

新福祉教育実践ハンドブック

上野谷加代子 他監修 上野谷加代子 他著 全国社会福祉協議会 1,800円

旧約聖書の学び

越川弘英 著 キリスト新聞社 1,800円

学校でできる認知行動療法

子どもの抑うつ予防プログラム 小学校編

石川信一 他著 日本評論社 2,200円

コンピュータネットワーク

三木光範 佐藤健哉 他著 共立出版 2,600円

Sejak kecil, anak-anak Indonesia termasuk saya, telah berkenalan dengan Jepang melalui film animasi. Nama saya sendiri berasal dari film “Candy-candy” yang populer di era 80-an. Saat beranjak dewasa, saya menyukai artis pop Jepang, seperti Namie Amuro dan Utada Hikaru. Walau ditentang banyak orang yang lebih menginginkan saya mengambil jurusan sains, saya memilih untuk mempelajari bahasa dan memperdalam bahasa Jepang. Hingga akhirnya saya bisa mendapatkan beasiswa pemerintah Jepang (MEXT) dan melanjutkan pendidikan master di Universitas Doshisha jurusan Culture and Information Science di bawah bimbingan Prof. Yamauchi Nobuyuki. Selain memperdalam linguistik, saya juga belajar banyak hal baru, seperti pengetahuan seputar corpus (database naskah-naskah bahasa yang terstruktur), dan ilmu statistik. Awalnya berat karena banyak hal asing di lingkungan baru. Tetapi saya sungguh bersyukur dapat kesempatan untuk mengembangkan diri di sini, di Universitas Doshisha yang memiliki lingkungan yang sangat mendukung, serta dapat bersentuhan langsung dengan budaya tradisional Jepang di Kyoto. Pertukaran budaya juga menjadi salah satu minat saya, karena dapat memperluas wawasan dan juga mengembangkan cara berpikir. Karena itu, saat masuk tahun kedua, saya mendaftarkan diri dan kemudian menjadi bagian dari staf kegiatan pertukaran budaya SIED (Student Staff for Intercultural Events at Doshisha). Saya ingin nantinya saya bisa berbagi ilmu dan pengalaman yang saya miliki dengan generasi penerus Indonesia, dan bisa menjadi jembatan penghubung antara Indonesia dan Jepang.

Candy

インドネシアの子供たちは、私も含め小さいときから、アニメーションを通じて日本のことを知っています。私の名前も、80年代に人気のあったアニメ「キャンディキャンディ」が由来です。大きくなってからは、安室奈美恵や宇多田ヒカルのような日本の歌手が好きになりました。サイエンスを専攻にした方がいいと多くの人が勧めましたが、私は、言語、特に日本語を学ぶことにしました。やがて文部科学省の奨学金を得ることができ、同志社大学文化情報学研究科の博士課程(前期課程)(指導教授:山内信幸先生)に進学しました。言語学だけではなく、自然言語をデジタル化した大規模なデータベースであるコーパス関連の知識やデータサイエンスの手法を初めて学びました。新しい環境のため、最初は大変でしたが、充実した環境の同志社大学、また、日本の伝統文化と接触できる京都で、自分が成長できることは、とても幸せなことだと思います。他には、異文化交流にとっても興味があります。異文化を知ることを通じて、新しい知識を得たり、また、視野を広げたりすることができます。そのため、2年次に入るとき、留学生課の学生スタッフ、SIED (Student Staff for Intercultural Events at Doshisha) に応募し、留学生スタッフに加えてもらいました。いつかは、こちらで得た知識や経験をインドネシアの若い世代に伝え、インドネシアと日本のかけ橋になりたいと思っています。

キャンディー

2013.4 ~文化情報学研究科博士課程(前期課程)(言語データ科学コース)に在学
(インドネシア出身)

熊谷真菜さんに聞く

二宮●熊谷さんが「コナモン（粉物）」に関心を持つようになったのは、どういうきっかけからなのですか。

熊谷●食べるのが大好きだし、食べ物を学問の対象にしたかったのです。大学の卒業論文を書くのに何をテーマにしようかと考えて、偉い先生の本を引用したりするのが好きではなく、難しい本を読むのも得意ではなかったものですから、それなら自分で調べて書きたいと思ったのです。

二宮●でも、ひと口に食べ物といってもすごく幅広くありませんか。

熊谷●そうですね。メニューそのものもあるし、今騒がれている食の安全性の問題もあります。どうしようと思った時に、「この先生なら」と思った人が国立民族学博物館におられた文化人類学者の石毛直道さんでした。世界をフィールドワークしている食文化の研究者なのですが、当時、食べ物を学問として捉えておられた石毛先生に触発されて、私なりの食べ物とを考えて思いついたのが、小さいときから親しんできたこ焼きだったのです。例えば、同じたこ焼きでも大阪では鉄の鍋物

今回の同志社人

熊谷 真菜さん

【1988年 文学研究科新聞学専攻修士課程修了】

1961年生まれ、兵庫県出身。立命館大学産業社会学部卒業後、同志社大学大学院へ進学。修士課程2年次に結婚。1男1女を育てながら、大学の卒業論文で取り上げたたこ焼きをテーマに研究を続け、著書『たこやき』をまとめる。「日本コナモン協会」を設立し、会長に就任。おやき、まめぶなど各地の郷土料理としての粉もん発掘や海外での粉もん交流会など、食文化研究家として多方面で活躍中。写真の胸につけている「5」「7」のワッペンは、「5月7日はコナモンの日」を表す。

で焼き、舟に入っていてソースがかかっています。一方、神戸では銅鍋で焼いて、板の上に乗って出てきてお出汁で食べます。タコが入る、小麦粉を使うという共通点はあるのですが、食べ方が全然違うのです。これはどういう文化の違いがあるんだろうと思ったんですね。それに、たこ焼きの歴史なんて誰も調べている人がいませんでした。母のつながりで高校生の終わり頃から出入りしていた「現代風俗研究会」という会があって、京大の桑原武夫さんが立ち上げられた、町の移り変わっていく文化を研究する会なのですが、その勉強会でたこ焼きをテーマにしようかと迷っていると、「誰もやっていないたこ焼きの論文を書けば第一人者になれる」と教授たちが応援してくれたのです。

インタビュー

二宮 洋介さん

【理工学部電子工学科 2年次生】





したから、結局2年の修士課程を3年かかって修了することになってしまいました。でも、同志社はあこがれたつたし、とてもいい先生たちにも出会うことができました。私にとってはすごく楽しい3年間でした。子どもができちゃったことだけは誤算でしたけど(笑)。

二宮 ●その後、1993年に「たこやき」という本を出されるんですね。

熊谷 ●大学3年次の夏から、たこ焼きについて調べ始めました。ソースがかかったたこ焼きとお出汁で食べる

のには、どういう目的があったのですか。
熊谷 ●2003年に設立したのですが、たこ焼きの本を出してからの10年はすごく忙しくて交友関係もどんどん広がっていききました。一方、たこ焼きだけではな

二宮 ●立命館大学を卒業後、同志社の大学院に入られたのはどうしてなのか。
熊谷 ●卒業する時にはとくに何になりましたというの、どこへ就職したいというのありませんでした。ただ、調べることが楽しかったし、フィールドワークをしたいという気持ちがあったので、それなら大学院に進もうと思ったのです。でも、ゼミの先生から「論文はよくできているが、立命館の大学院へ進むのは無理だ」と言われて(笑)。当時、同志社の大学院には新聞学専攻というのがあり、鶴見俊輔さんという現代風俗研究会のメンバーで、日本を

代表する哲学者の先生がいらっしやいました。ほかにも、同志社の新聞学には面白い先生がたくさんいて、大学時代にアルバイトで秘書の仕事をしていた多田道太郎という京大の先生も、「同志社ならユニークな先生が多いから、たこ焼きの研究でも受け入れてもらえるんじゃないか」と言ってくれたのです。

二宮 ●大学院生活はいかがでしたか。

熊谷 ●それが、院に入って1年目で結婚して、2年目には子どもができたのです。赤ちゃんに授乳しながら図書館で資料探しをしたり、子育てと並行しての勉強で

たこ焼きにはどういう相関関係があるのかとか、自分の中にある素朴な疑問を、図書館などに通って1つずつ調べていったのです。当時は今のようにインターネットがないので、地を這うアリさんのように、いろんな方の紹介をつないで、調査を進める作業は今思うと、ようやくたな…という感じです。ネットの情報はいい加減なところがあつて全面的に信用することはできませんが、答えのあたりはつけられます。そういう意味では、今の学生は恵まれていると思いますね。

二宮 ●「日本コナモン協会」をつくられた





粉でできていることに気付いたのです。そして

その頃、ある会社の

社員から「大阪に

たこ焼きミュー

ジウムを作りたい

い」という相談

がありました。で

も、バブルも弾けて

いたし、今さらハコ

モノを作る時代でもあ

りません。それよりも私は、

みんなと一緒にワイワイできる

ようなネットワークを作りたいと思って

いましたから、私の好きな粉物を研究す

る会ということで日本コナモン協会をつ

くったのです。コナモンという言葉はあま

り使われていなかったのですが、語感が当

時流行っていたポケモンにも似ているし、

かわいんじゃないかと思って(笑)。

二宮 ● 具体的にはどんな活動をする会なのですか。

熊谷 ● 会員制でも何でもなく、全国にいろんなネットワークがありメンバーがいて、みんな勝手に好きなことをやっています(笑)。例えば2007年には、お好み焼き、たこ焼きなどのお店をバビリオンに見立てて、食べ歩きを楽しんでもらう「大阪コナモン博覧会」を開きました。オリジナルのコナモン料理を考案する「創作コナモ



ングランプリ」を開いているところもあります。緩やかにコナモンが好きな人たちが集ってやりたいことをやり、それをみんなでお手伝いする。そういう会ですから、「民間道楽団体」といわれています。ただ、小さくても頑張っているいいお店を知ってもらいたいし、お客さんにも来てもらいたいので、そういうお店を紹介し、町の個性を大切にしたいというコンセプトなんです。

二宮 ● 大学は違いますが、僕たち後輩の大学生にアドバイスをいただけますか。

熊谷 ● 20歳代は、とにかく自ら望んで苦労と努力をしてください。そして、好きなものを持つというのは就職してもしなくても大事なことでと思うのです。自分の好きなことについて他の人と語り合ったり、特に食べ物は一緒に食べられるという

よさがありますから、それは世界のどこへ行っても共通です。私たち学生の頃は、食文化というのが言葉としても学問としても成り立っていなかった時代なのですが、石毛先生の研究があったから私は何とか続けられた。立命館の先生からは反対されましたが、私は大学生の気楽さで自由にやってきました。ですから、学生でいる間は先生に何を言われても、自分の思う通り自由にやっていいのかなと思います。最終的には立命館の先生も認めてくださいましたし。

二宮 ● 僕にとって料理はあくまで楽しみの一つ。それで将来どうこうということは考えていませんが、好きなものとしてずっと持ち続けていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

INTERVIEWER

二宮 洋介さん

理工学部電子工学科 2年次生

大阪市出身。大学時代に料理ができるようになればと、軽い気持ちで入った「料理研究会」。会長となった今は、130人を数える大所帯をまとめる立場に。研究会の活動は、京田辺の公民館で週に1回、今出川では青少年活動センターで月に2回、レシピと材料を持ち寄り料理を作る。おいしい、まずいは関係なく、みんなで食べることが楽しいという。

自分の好きなことをやり続けることはすばらしい。

実際にお会いして、想像した通りの方で安心しましたし、すごくいいお話が聞けました。大学院を出てなぜ日本コナモン協会をつくったのか、せっかく大学院を出ているのに、という疑問があったのですが、自分の好きなことをずっとやり続けていることがすばらしいと思います。同時にうらやましいとも思いました。僕はまだやり続けるのに値するような自分の好きなことが見つからないので。電子工学科に入ったのも、祖父も父も電気関係なのでというのが理由だし、今もまだ自分自身、本当に何をやりたいのかわかっていません。ただ、まだ2年次生なので、これから熊谷さんの「自分の思う通り自由に」という言葉を大事にして、やりたいことを見つけていこうと思っています。

お客様の潜在ニーズを形に。成果が明らかに見えることが仕事の醍醐味。

LED照明が一般家庭にも普及しはじめたのは、私が入社した2012年のこと。前年の東日本大震災で、節電需要が伸びたことがきっかけでした。家電、生活用品など様々な製品を製造・販売している当社でも、現在はLED事業に力を入れています。

私がLED事業本部に異動になったのは約1年前。法人を対象に、LED照明の提案を行っています。他のメーカーも多く参入するこの業界において、当社の強みは自社で設計・製造した製品を直接エンドユーザーに提案していること。お客様にとっての価格メリットが出やすく、責任の所在が明確な点が特徴です。また、お客様の要望に応じて製品を改善できるとともに、製造のリードタイムを短縮できて供給しやすいというメリットもあります。

LED照明の営業というと、一般的には節電効果をアピールしがちですが、技術は日進月歩なので、正直言って、どのメーカーの製品も性能的にはほとんど差がありません。照明について不満を持たれているケースもほとんどないので、現場の状況を見て、相手から潜在的なニーズを引き出しながら、よりよい提案を心がけています。打ち合わせを繰り返し、最後まで形にして成果が明

らかに見えるのが、メーカーの営業ならではの喜びです。難しい要求に応えられたときは、何よりも達成感があります。昨年、お客様の要求にお応えするために他部署も巻き込んで、ある商業施設の全30店舗を2カ月間でLED化した経験は、自分にとって得るものが大きい仕事でした。当社は風通しがよいので、現場をよく知る私が最善だと思うことはきちんと発言することができました。

一人に任せられる裁量が大きく、仕事の最初から最後まで関係部署と連携して進めていくことが多いのですが、これには学生時代にフットサルサークルの運営に打ち込んでいた経験が役立っていると感じています。リーグ優勝を目指してサークル仲間と立ち上げ、リーグの運営にもかかわったのですが、人をまとめることの難しさを痛感しました。意見が違ったり、試合に人が集まらなかったり。それでも、練習を盛り上げるためのメニューを考え、みんなが来やすい練習場所の確保に奔走。それまでリーダーシップを発揮する機会がなかったの、いい経験になりました。もちろん、学部の勉強で経営学や簿記を学んだことも、企業トップの方々と会う機会が増えた今、経営状態を見てお話し

をするときに、大いに役立っています。

上司がよく言うのは、「ずっと形に残るものを提案するのだから、かつこい仕事しようよ」。担当エリア内には、東京オリピックに関連した競技場なども計画されており、地図に大きく残る仕事ができるのではないかと期待しているところです。



宮田 裕也さん

【2012年 商学部卒業】

アイリスオーヤマ株式会社 LED事業本部 電材事業部 京浜営業所

大阪府高槻市出身。設計図を描いたり、現場の工事にまで踏み込んだりと、一貫した提案で取引先との信頼関係を深めている宮田さん。一つひとつの経験が、次の提案に生きてくると言う。照明の世界は奥が深く、「LEDに切り替えることで、オフィスであれば働く環境がよくなったり、飲食店や量販店であれば、お客様の購買意欲が高まることもあります」。これまで照明と深く付き合ってきた中で、「世の中の流れや、一つの物ができる仕組み、自分の手元に届くまでの仕組みがよくわかるようになりました。学生時代には、社会人になったら目の前の仕事で手一杯だろうと想像していましたから、広い視野で仕事ができることは意外でした」と話す。もう一つ想定外だったのは、「自分の時間が思った以上に取れないこと」。「在校生のみなさん、今のうちに遊んでおいってくださいね」と笑う。

伝えることでギャップを埋める。 その魅力が広報・PRの仕事につながった。

2013年9月、企業のグローバルコミュニケーションを支援する広報・PRコンサルティング会社「アールトインターナショナル」をシンガポールで立ち上げました。今年5月には、日本の拠点として「アールトインターナショナルジャパン」を設立。日本企業の海外向けPRを支援する事業を始めています。

私が広報・PR分野で日本と世界の国の間をつなぐ仕事をしたいと思うようになったのは、2つのきっかけがありました。1つは6歳の時、阪神淡路大震災で西宮の自宅が全壊し被災したことです。以来、地震防災に関心を持ち、大学1〜2年次にはウェブを通じて同世代に防災に興味を持ってもらう企画に取り組みしました。もう1つは、学生が主体となって日本とノルウェーの国際交流団体「日本ノルウェー学生フォーラム」という組織で渉外・広報を担当したこと。未知の国だったノルウェーと日本をつなぎ、さまざまな情報や文化を共有し、伝えていくことがとても面白いと感じられたのです。

伝えることに関して、日本の企業・組織は、どのような課題を持っているかを知り、その解決方法を学ぼうと、卒業後は博報

堂グループのPR会社に入りました。新聞社など特定のメディアに所属するのではなく、様々な媒体や方法を用いて伝えていきたいと思ったからです。PRの仕事をしているとき、世界中から企業が進出している多国籍国家のシンガポールを知りました。ぜひそこで仕事をしたいと思い、日系人材紹介会社の立ち上げに加わって法人営業とアジアでの広報を担当していた時、スウェーデン発でグローバルPRウェブサービス「マイニュースデスク」を運営する会社に出会ったのです。「マイニュースデスク」を日本企業向けに展開すれば、日本の企業がもっと世界にPRできる手段ができるはず。そう確信して独立、グローバルPRサービスを事業の軸に据えて、起業したのが「アールトインターナショナル」です。

私が持ち続けているパッションは、何かと何かの間のコミュニケーションギャップを埋めるということです。ギャップを埋めるために企画や努力することが好きで、そのギャップが大きければ大きいほど面白く、それはまさに広報の仕事だと思っています。国際間の橋渡しというのも、最初から自分の中にキーワードとしてあったわけ

はなく、ギャップを埋めるということから見つけたものでした。学生時代からビジネスやウェブなど、様々な視点と発想を持った学生が集まる同志社大学に入って、仲間刺激を受けて、私はチームでギャップを埋めることの楽しさを知りました。学生のみなさんも大学で何かに取り組むうちに、きっと将来の道につながっていくものが見つかるとは思います。何より同志社大学はそんな土壌のある学校だと思います。

福井 麻里子さん

【2010年 社会学部教育文化学科卒業】

AALTO INTERNATIONAL Pte Ltd、AALTO INTERNATIONAL JAPAN株式会社
代表取締役／グローバルPR戦略プランナー

兵庫県出身。阪神淡路大震災で被災し、大阪府堺市に移り住んだ。震災を経験し、「生きていく中で自分なりに出来ることで何かを残したい」と思うようになったという。卒業後わずか3年でシンガポールと日本、二社の企業の経営者となった福井さんだが、サポートしてくれる仲間(副代表)が3人いる。会計、マーケティング、ウェブ構築、それぞれの専門分野のプロフェッショナルで、全員同志社大学の出身。公認会計士の津坂晋一さんとはシンガポールで出会ったが、マーケティング戦略プランナーの安井基樹さん、ソフトウェアエンジニアの前山晋哉さんとは、在学中の課外活動で知り合い、「将来一緒に何かしたいとずっと思っていた仲間」で、それぞれ卒業後、海外勤務や起業を経て、京都で再び結集した。

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体10月～11月の活動予定—

【学内】

- 10月6日(月)～10日(金) ART-SOZO 「展覧会(4回生展)」
京田辺 ローム記念館 9:00～17:00 無料
- 10月7日(火) プロレス同盟「プロレス興行」
京田辺 ハローホール多目的ホール
12:15～14:00(12:00開場) 無料
- 10月13日(月・祝) Soul 2 Soul 「秋ハーディーホール発表」
寒梅館 ハーディーホール
17:00～18:30(16:30開場) 無料
- 10月15日(水)～19日(日) ART-SOZO 「展覧会」
寒梅館 ギャラリー 9:00～21:00 無料
- 10月16日(木) ピアノ研究会「アトリウムコンサート」
寒梅館 アトリウム 12:30～13:00 無料
- 10月19日(日) ピアノ研究会「定期演奏会」
寒梅館 ハーディーホール
15:00～17:00(14:30開演) 無料
- 10月20日(月)～24日(金) 卒業アルバム委員会
「卒業アルバム 個人・ゼミ・サークル撮影会」
京田辺 多目的ホールラウンジ 10:30～18:00 無料
- 10月21日(火) Soul 2 Soul 「秋多目的ステージ発表」
京田辺 ハローホール多目的ホール
17:00～18:00 無料
- 10月26日(日) E.S.S.「感動戦」
京田辺 学生会館 10～14会議室
11:00～19:00(10:00開場) 無料
- 10月30日(木) 喜劇研究会「お笑いライブ」
寒梅館 クローバーホール
13:00～14:30(12:30開場) 無料

【学外】

- 10月11日(土) 応援団「同立戦前夜祭」
京都市役所前広場 15:00～(14:30開場) 無料

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金等は変更されることがあります。

【ボードセーリング部】

- 10月4日(土)・5日(日) 関西選手権第二戦
場所：琵琶湖佐波江(滋賀県) 9:00
- 11月10日(月)～12日(水) 全日本学生ボードセーリング選手権
場所：奥間海岸沖(沖縄県) 9:00
- 12月6日(土)・7日(日) 関西選手権第三戦、関西新人大会第三戦
場所：甲子園浜(兵庫県) 9:00

【水泳部】

- 10月28日(火)・29日(水)
日本選手権(25m)水泳競技大会 FINA スイミングワールドカップ2014東京大会
場所：東京辰巳国際水泳場 9:00
- 12月7日(日) 関西学生冬季公認記録会
場所：京都アクアリーナ 9:30

【カヌー部】

- 10月20日(月)・21日(火) 関西カヌースプリント選手権大会
場所：琵琶湖漕艇場(滋賀県) 9:00

【射撃部】

- 10月31(金)～11月3日(月・祝) 全日本学生ライフル射撃選手権大会ほか
場所：埼玉県長瀬総合射撃場 全日10:00予定
- 11月14日(金)～16日(日) 全関西学生ライフル射撃新人戦ほか
場所：能勢町国体記念スポーツセンター(大阪府) 全日10:00予定

【馬術部】

- 11月1日(土)・2日(日) 全日本学生賞典障害飛越競技大会
場所：三木ホースランドパーク 8:00
- 11月3日(月・祝)・4日(火) 第57回全日本学生賞典馬場馬術競技大会
場所：三木ホースランドパーク 8:00

- 11月4日(火)・5日(水) 第57回全日本学生賞典総合馬術競技大会
場所：三木ホースランドパーク 8:00
- 12月20日(土)・21日(日) 第86回全日本学生馬術選手権大会
場所：JRA馬事公苑 8:00
- 12月20日(土)・21日(日) 第50回全日本学生馬術女子選手権大会
場所：JRA馬事公苑 8:00
- 【陸上競技部】
- 10月21日(火)～24日(金) 関西学生陸上競技種目別選手権大会
場所：ヤンマースタジアム長居 全日10:00開始予定
- 【ソフトボール部男子】
- 関西秋季リーグ戦
- 10月4日(土) 場所：万博記念公園 10:10 対戦相手：立命館大学
- 10月11日(土) 場所：万博記念公園 8:30 対戦相手：龍谷大学
- 10月13日(月・祝) 場所：万博記念公園 8:30 対戦相手：京都産業大学
- 10月19日(日) 場所：万博記念公園 10:10 対戦相手：神戸学院大学
- 【硬式野球部】
- 関西学生野球連盟秋季リーグ戦
- 10月5日(日) 13:00、10月6日(月) 10:30
場所：ほっともっとフィールド神戸 対戦相手：関西大学
- 10月14日(火)・15日(水) 17:00
場所：わかさスタジアム京都 対戦相手：立命館大学
- 【相撲部】
- 11月8日(土)・9日(日) 全国学生相撲選手権大会
場所：両国国技館(東京都) 9:00
- 【ラグビー部】
- 関西大学Aリーグ
- 10月5日(日) 場所：花園第一グラウンド 14:05 対戦相手：天理大学
- 10月12日(日) 場所：宝ヶ池公園球技場 12:00 対戦相手：大阪体育大学
- 10月26日(日) 場所：花園第一グラウンド 14:00 対戦相手：近畿大学
- 11月2日(日) 場所：鶴見緑地球技場 12:00 対戦相手：摂南大学
- 11月15日(土) 場所：花園第二グラウンド 12:00 対戦相手：京都産業大学
- 11月23日(日・祝) 場所：宝ヶ池公園競技場 12:00 対戦相手：関西学院大学
- 12月6日(土) 場所：西京極総合運動公園 14:05 対戦相手：立命館大学
- 【アメリカンフットボール部】
- 関西学生アメリカンフットボールリーグDiv.1
- 10月12日(日) 場所：EXPO FLASH FIELD 12:00
対戦相手：京都大学Gangsters
- 10月25日(土) 場所：西京極陸上競技場兼球技場 12:00
対戦相手：龍谷大学SEAHORSE
- 11月8日(土) 場所：キンチョウスタジアム 12:00
対戦相手：近畿大学DEVILS
- 11月24日(月・祝) 場所：EXPO FLASH FIELD 15:00
対戦相手：神戸大学RAVENS
- 【柔道部】
- 10月25日(土)・26日(日) 全日本学生柔道体重別団体優勝大会
場所：ペイコム体育館(兵庫県) 10:00
- 【男子ハンドボール部】
- 関西学生ハンドボール秋季2部リーグ
- 10月4日(土) 場所：神戸国際大学体育館 11:25 対戦相手：龍谷大学
- 10月19日(日) 場所：桃山学院大学体育館 10:00 対戦相手：天理大学
- 【女子ハンドボール部】
- 関西学生秋季ハンドボールリーグ戦
- 10月5日(日) 場所：大浜体育館 12:50
- 10月12日(日) 場所：関西福祉科学大学体育館 15:40
- 【サッカー部】
- 10月5日(日) リーグ京都産業大戦 場所：山城総合運動公園陸上競技場 11:30
- 10月11日(土) 大阪産業大戦 場所：山城総合運動公園陸上競技場 11:30
- 10月18日(土) 大阪体育大戦 場所：キンチョウスタジアム 11:30
- 10月25日(土) 桃山学院大戦 場所：三木防災陸上競技場 11:30
- 11月2日(日) 立命大戦 場所：キンチョウスタジアム 14:00
- 11月9日(日) 関西大戦 場所：高槻市立荻谷競技場 11:30
- 11月15日(土) 大阪学院大戦 場所：高槻市立競技場 11:30
- 11月22日(土) 大阪教育大戦 場所：J-GREEN堺メイン 11:30

同志社創立139周年記念リユニオン 同志社大学ホームカミングデー2014

卒業生の皆さまを思い出のあるキャンパスにお迎えし、母校で過ごしていただくとともに、懐かしい友人や教員と旧交を温めながら、同志社大学の「今」を感じていただく1日にしたいと考えております。
ホームカミングデーならびにリユニオンを下記のとおり開催いたしますので、是非とも足をお運びください。

【日時】11月9日(日) 10:00～16:30 【会場】今出川校地

*開会式

【時間】10:00～10:45 【会場】栄光館(同志社女子大学構内)

*卒業生交流レセプション

【時間】12:20～13:30 【会場】寒梅館1階特設会場

【会費】2,000円

詳しくはホームカミングデーHPまで

<http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/homecomingday.html>

【お問い合わせ先】校友・父母課 TEL: 075-251-3009

E-mail: ji-koyu@mail.doshisha.ac.jp

同志社クローバー祭(同志社京田辺祭)

11月1日・2日の2日間、同志社クローバー祭(同志社京田辺祭)を開催します。昨年までの大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成という観点はそのまに、そこに学生の皆さんに多く参加していただくことで例年以上の活気あふれるお祭を目指しています。期間中は、アーティストライブ(無料)・模擬店・きずなぱれっと・アカデミック体験コーナーなどがお祭を盛り上げます。また、東日本大震災の復興支援として、福島県の物産展なども出店しますので、是非、京田辺キャンパスにお越しいただき、お祭のにぎわいを感じてください。

【日時】11月1日(土)・2日(日) 【場所】京田辺キャンパス

【お問い合わせ先】クローバー祭実行スタッフ TEL:0774-65-7832

第139回同志社EVE

同志社創立139周年を記念して、今年も今出川校地を中心に同志社EVEが開催されます。日頃の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術アピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として、講演会や演劇、演奏会等が華々しく開催されます。

【日程】EVE期間 11月1日(土)～28日(金)

出店期間 11月26日(水)～28日(金)

【場所】今出川校地

【お問い合わせ先】第139回全学EVE実行委員会 TEL: 075-251-4452

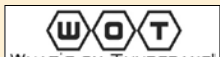
新入生の学費について

2015年度入学生の学費については、5月22日開催の大学評議会ならびに5月24日開催の法人理事会において決定されました。詳細は下記の大学ホームページをご覧ください。

なお、在学生の学費については、すでに入学時に明示しているとおりであり変更はありません。

・学部 http://www.doshisha.ac.jp/admissions_undergrad/entrance_exam.html
の「学生納付金(学費)と納入方法」の項

・大学院 http://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/index.html の
「学生納付金」の項



WOT(ワット) = "What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●10月2日(木) 映画上映『巴里の屋根の下』(1930年/フランス/96分)
10:45/13:30/16:00/18:30

料金: 一般 1,300円、Hardience会員・学生・前売 1,000円

●10月9日(木)

映画上映『ハンナ・アーレント』(2012年/独・ルクセンブルク・仏/114分)
14:00/18:30

料金: 一般 1,300円、Hardience会員・学生 1,000円

●10月14日(火) 特別編

映画上映『フィリップ・ガレル特集 in 関西』

19:00 『愛の誕生』(1993年/フランス・スイス/94分)

※上映前に、ジャン＝ピエール・レオー氏(俳優)による舞台挨拶あり(予定)

※一般有料(詳細未定)

●10月16日(木)

映画上映『イエジー・スコリモフスキ 「亡命」作家の軌跡』

13:30 『ムーンライティング』/ 16:00 『シャウト』/ 18:30 『出発』

一般 1,800円、Hardience会員・学生 1,300円

●10月23日(木)

映画上映『それでも夜は明ける』(2013年/アメリカ・イギリス/134分)
10:45/14:00/18:30

※10:45/18:30の回は字幕スーパー版、14:00の回は日本語吹き替え版

料金: 一般 1,300円、Hardience会員・学生・前売 1,000円

●10月30日(木)

映画上映『ゴダール/新世紀の起源』

16:00 『中国女』(1967年/フランス/96分/カラー)

18:30 『はなればなれに』(1964年/フランス/96分/モノクロ)

料金(各回入替制): 一般 1,300円、Hardience会員・学生 1,000円

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL: 075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※11月以降も毎週木曜日、映画上映などの催しを予定しています。詳細はお問合せください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアタークローバーホールでは、映画史に残る名作の上映を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●10月7日(火) 映画上映『亡命者たち～ナチスドイツからの亡命』

16:30 『死刑執行人もまた死す』フリッツ・ラング監督/1943年/アメリカ/135分

19:00 『自由への闘い』ジャン・ルノワール監督/1943年/アメリカ/103分

*入場無料

●10月21日(火)

映画上映&トーク『監督リュック・フェラーリ～作曲家が「それ」を撮影する時～①』

19:00 『スポンタネIV』『少女たちあるいはソシエテIII』

※アフタートークあり: ゲスト ブリュンヒルト・フェラーリ、椎名亮輔

料金: 一般 800円、プレスクリヤン協会会員 500円

●10月28日(火)

映画上映&トーク『監督リュック・フェラーリ～作曲家が「それ」を撮影する時～②』

18:30 『ほとんど何もないあるいは生きる欲望』第一部・第二部

※第一部・第二部の間に解説あり: ゲストは21日と同様

料金: 一般 800円、プレスクリヤン協会会員 500円

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL: 075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。※11月以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。



FLAT bふらっとプログラム

【会場】京田辺校地ハローホール 【料金】無料

●10月2日(木) アロハ フェスティバル

「Mizuki-Shintaro-Meahula Nohealani」

●10月16日(木) 映画上映「アメイジング スパイダーマン2」

●11月21日(金) 和太鼓×篠笛×京炎そでふれ! コラボコンサート

※内容・時間は決まり次第HP等でお知らせしますのでご確認ください。

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL: 0774-65-7413

「第50回日本女子学生ゴルフ選手権」優勝

もう一度頂点に立ち、目指すのはプロの道

昨年8月、兵庫県の加古川ゴルフ倶楽部で行われた「2013年度(第50回)日本女子学生ゴルフ選手権」。最終日、首位でスタートした坂下莉翔子さんは、途中2位の選手に逆転を許すも、17、18番を連続バーディーで絞め、通算2アンダーで初優勝を果たした。同志社大学の選手では恒川智恵さん(2004年大会)以来、9年ぶりの栄冠となった。

「在学中に絶対1度は獲りたいと思っていたタイトル。春からずっとショットで悩んでいたのが、1週間前からいい感じになってきていたの、でいけそうな気はしていました」と、笑顔を覗かせる。

ゴルフを始めたのは小学校3年の時。3歳の姉、莉慧子さんが通っていたことから、父の勧めでプロを目指す子どもたちの養成スクール「坂田ジュニアゴルフ塾」に入ったのがスタート。平日は学校の授業が終わればすぐに練習場へ。土日は朝から練習場でクラブを振り、午後はコースに出てラウンド。ハーフを回って帰ってくれば、また練習。正月の三が日以外は休みがまったくない生活に、「小さい頃はやらされている感があった、正直ゴルフが好きだったとはいえないで。遊びたいのも我慢しないといけなかったし、いやになったことは何度もあります」。

そんなゴルフに対する姿勢が変わったのは、中学3年生で初めて全国大会に出場したことがきっかけ。「全国のレベルを肌で感じて、もっ

とうまくなりたい、強くなりたいという気持ちが大きくなったんです」

高校ではゴルフ部に所属。個人ではさほど目立った成績は残せなかったが、インターハイの団体戦でベスト8に残った実績から、同志社大学にスポーツ推薦で入学。姉が先に入っていて、「練習の環境もいいし、勉強もしっかりできると聞いていましたから」。また、姉の後を追う形になった。

「ずっと姉が上で、私より期待もされていました。私自身、姉の背中を追って、進路も姉を見て決めてきたような気がします」

莉慧子さんは関西ではトップの実力者だったが、全国大会は4位止まり。昨年の女子学生選手権の優勝で、とうとう目標だった姉を超えた。「でも、姉はライバルであると同時に、一緒につらい練習を耐えてきた仲間でもあるんです」

莉慧子さんは今年7月にプロテストに合格し、プロとして頑張っている。莉翔子さんもまた、姉と同じ道を歩む考えた。

しかし、その前に体育会ゴルフ部の女子キャプテンとして、団体でも全国優勝を勝ち取るという悲願がある。そしてもうひとつ、狙うのは今年の女子学生選手権優勝。1978、1979、1981年の3大会で優勝した、大先輩の小田美岐さん以来の連覇が、目の前の目標だ。

最後に「ゴルフは好きになりましたか?」と訊くと、大きな瞳を輝かせて答えた。

「もちろん、大好きです!」



坂下 莉翔子さん
【社会学部メディア学科3年次生】

写真提供: 日本ゴルフ協会